

地域電力会社の挑戦 —陸前高田しみんエネルギーを通して考える—

陸前高田最後の特集は、この地を拠点に活動する「陸前高田しみんエネルギー」をご紹介します。

陸前高田しみんエネルギーは、2019年6月に設立された、地域新電力会社で、陸前高田市からの事業趣旨賛同のもと出資、および市内すべての公共施設の電力を供給されています。

設立の目的は、陸前高田という地域の復興と、地域内経済循環を目的としており、「地域のための、地域に選ばれる電力会社をつくり、地元での雇用創出や再エネ調達、納税を通じて、これまで地域の外に流れ出ていた電気代を、地域に残したい。」

このような思いで、事業を運営されています。今回はより詳しいお話を伺うために、陸前高田しみんエネルギーの大林孝典さんにインタビューをしました。



陸前高田しみんエネルギー、大林孝典さん

なぜ、陸前高田に地域電力会社？

つるエネ：大林さん、どうぞよろしくお願ひします。今回は陸前高田しみんエネルギーのことについてお伺ひしたいのですが、まず最初に、陸前高田しみんエネルギーの設立経緯を教えてくださいませんか。

大林さん：もともとは震災復興の中で、ワタミ株式会社が陸前高田市に地域電力事業の提案をしたのが始まりでした。地域循環経済の構想はこれからの地域課題解決に必要なものだと認識から、市からの出資も含めて立ち上げが始まりました。当時は特に反対もなく、すんなりと進んだと思います。

つるエネ：自分の街に地域電力会社ができるということで、それに対する反応や期待などはどのようなものがあつたのでしょうか？

大林さん：当初は自治体を中心に進めてきたこともあり、まずは認識してもらおうということが第一だつたと思っています。地元紙に載せて頂いたり、営業活動を通じて現在は30社の地元企業さんにも供給させてもらってはいますが、期待などの反応はまだこれから生み出していかねばならないものと考えています。

なぜ、JICAから陸前高田へ？

つるエネ：いきなり話が飛びますが、個人的な関心として、大林さんのこれまでの経緯も興味深いと思っています。もともとはJICA（独立行政法人国際協力機構）にお勤めだったんですね？

大林さん：そうです。8年間在籍してました。もともと高校生の時くらいから海外で働くことに関心があつて、サッカー選手になるか、それがダメなら国際舞台で働こうと思つていましたが、あえなくサッカー選手にはなれなかつた（笑）。大学も国際の関係に進学し、卒業後JICAに入ることが決まりました。人事異動でいくつかの部署を渡り歩きました。JICAは日本のオフィシャルな国際協力を行うということで、スタッフはしっかりと計画、実施、評価を行う役割を担います。支援にかかわる専門家やコンサルとセットで、現場で立てた計画をもとに、ヒト・モノ・資金をマネジメントしながら、プロジェクトが終われば次につながるようにPDCAサイクルを回していく。このプロジェクトをマネジメントするのが、JICA職員としての私の役割でした。最後2年半はアフリカのタンザニアにもいました。

つるエネ：え、タンザニアですか？

大林さん：アフリカのタンザニアで、地方自治の支援や水供給改善などを支援していました。例えば、日本では水源地から水を引いてきて、その漏水率って数%程度だと思ふんですが、タンザニアは場所によって60%とか半分以上が漏れている。漏水率の改善をしましたね。

大林さん：そうですね。タンザニアは日本だけではなく、ヨーロッパ諸国、国連、アメリカ、中国なども支援している国で、そういう国だからこそ日本の支援の良さも見えるのではないかと、思つて希望しました。そこで感じたのは、日本の支援の丁寧さ、ですね。プロジェクトが終わつても継続性をもってもらうための仕組みなどを考えていたのが、日本の特徴だつたと思います。

つるエネ：そこからなぜ、陸前高田につながるのでしょうか？

大林さん：学生時代からのご縁で、震災後も復興支援などに携わつていたことと、JICAの時にも感じていたこととして、人事ローテーションの関係で一つのプロジェクトに携われるのが長くても3年程度だつた。もっと長く責任をもってかかわりたいという思いから、陸前高田に根を下ろしていくことを決めました。陸前高田は皆さんご存じのように震災復興で世界中の人から支援を受けました。私も震災の二か月後に陸前高田にいましたが、給水車は全国から来ている。食糧支援は海外からきていて、当時は韓国の辛ラーメンとか、ロシアのチョコレートも分けてもらった記憶があります。前職が国際関係だつたので、市役所では最初にインバウンド・海外視察対応の担当になりました。そこで感じたのは、地域の方が海外の人に対しても非常に融和的で、「ありがとう」から入る。感謝から入るのが印象的だつたんです。陸前高田しみんエネルギーの「しみん」は、なぜ平仮名なのか、ということですが、これは「住民；市民」だけではなく、外の支援者を「思民」と名付け、その人たちも含めた「しみん」を構想しています。こうした人々たちとのつながりも、今後電力を通して繋げていきたいなと思つています。陸前高田に、「ありがとう」の繋がりを作っていきたく思つています。

脱炭素先行地域を目指します

大林さん：今は環境省の交付金である「脱炭素先行地域」への応募に注力しています。このプロジェクトに採択されて、さらに契約者や協力者が増えれば、僕たちもできることが増えていきますからね。そういう好循環を生み出していきたく思つています。

つるエネ：陸前高田しみんエネルギーの由来が聞いて良かったです。また地域から世界へと広がる風景が見えました。貴重なお話、ありがとうございました。



写真提供：陸前高田市

陸前高田しみんエネルギーが運行を支援する地域貢献事業、「グリーンスローモビリティ「モビタ」」。同市は国の「SDGs未来都市」にも選定されている。